

第3回胡屋地区交通結節点整備検討委員会 議事録

1. 開催日時：令和8年2月18日（水）13:30～15:30

2. 場 所：沖縄こどもの国チルドレンズセンター2F 及び Web

3. 出席者：○委員

神谷 大介	琉球大学工学部工学科 社会基盤デザインコース 教授 【委員長】
池田 孝之	琉球大学 名誉教授
羽藤 英二	東京大学大学院工学系研究科（工学部） 教授
石垣 綾音	株式会社さびら 事業推進統括
慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会 常勤顧問
稲嶺 聡	沖縄バス株式会社 取締役運輸部長
比嘉 良尚	東陽バス株式会社 運輸部長
小川 吾吉	株式会社琉球バス交通 代表取締役
島袋 隆	中部観光バス株式会社 代表取締役社長
津波古 修	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事（欠席）
佐々木 豊	沖縄商工会議所 中小企業振興部 部長
花城 満	沖縄県警察本部 交通規制課 警部補（代理）
比嘉 康人	沖縄県沖縄警察署 地域交通官
平良 秀春	沖縄県 企画部 交通政策課 課長
砂辺 秀樹	沖縄県 土木建築部 道路街路課 課長（WEB 参加）
安里 嗣也	沖縄県 土木建築部 道路管理課 課長（欠席）
西里 雅範	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課 主任技師（代理）
平良 栄	沖縄市 総務部 部長（欠席）
知念 靖	沖縄市 企画部 部長（欠席）
川満 輝繁	沖縄市 建設部 部長（欠席）
兼城 賢信	沖縄市 経済文化部 部長（欠席）
亀谷 匡哉	沖縄総合事務局 運輸部 企画室 室長
岡本 雅之	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官
伊藝 誠一郎	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 課長
外間 喜之	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課 地方整備官（代理）
松澤 尚利	沖縄総合事務局 南部国道事務所 所長

○オブザーバー

比嘉 優	沖縄総合事務局 南部国道事務所 管理第二課 交通対策 GL（欠席）
------	-----------------------------------

○事務局

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

沖縄県 企画部 交通政策課

内閣府 沖縄総合事務局 南部国道事務所 調査第一課

4. 議事要旨：

- 委員：本交通結節点においては、将来的に路線バスの折り返しの運行や連節バス、市のコミュニティバスの利用が想定されるため、待機スペースは、十分に確保いただきたい。
- 事務局：待機スペース等に関して、乗り入れ車両に応じたスペースの確保を検討していく。
- 委員：必要機能として記載している「充電施設」が EV バスのための施設である場合、バスの営業所にその施設を導入し、そこで充電して運行するというのが本来の姿である。本交通結節点は、利用者が乗降したりバスが折り返しを行う場となる。交通結節点内に乗り入れたバスが待機する際に、充電できるような施設を整備するかについては、引き続き、議論いただきたい。
- 事務局：ご指摘いただいた内容を踏まえ、今後検討を行う。
- 委員：国道を跨いだ両方の交通結節点に連絡施設を設けることは機能向上に繋がると考える。近隣施設においては、手すり壁の老朽化によりイベント時に利用できない状況にあることから、連絡施設の手すり壁を設ける際は、安全性を確保いただきたい。
- 事務局：立体横断施設の手すり壁に関しては、ご意見を踏まえて検討を進めていく。
- 委員：胡屋北交差点改良事業について、渋滞緩和の観点から早期完了できるよう推進いただきたい。
- 委員：資料にもある将来的な運転手不足や運行本数減少の懸念においては、折り返しできる機能による、路線網の効率化に加え、待機スペースや運転手の休憩所を十分に備えることが重要と考える。
- 事務局：折り返し機能や休憩施設に関しては、必要機能へ盛り込んでおり、引き続き具体的な検討を進めていく。
- 委員：検討区域周辺には既存駐車場が多数あることから、それらを有効活用した P&R を促進し、バスの利用促進につなげることが重要であると考え。社会実験を実施し、利用促進を図るとともにニーズを把握するのはどうか。また、広域的な観点から那覇空港の駐車場やてだこ浦西駐車場の役割を踏まえ、沖縄県全体として位置付けを整理した方が良い。
- 事務局：既存駐車場の調査結果から、本交通結節点との連携の可能性は大いにあると考えている。交通結節点の機能強化の観点から P&R に関する社会実験やアンケートを実施し、需要を掘り起こしながら、既存駐車場と交通結節点をどう連携させるか検討していきたい。
- 委員：高速バスと交通結節点の連携に関して、BC コザ（旧コリンザ）付近の高速道路内にバス停整備を検討いただけないか。沖縄南 IC と本交通結節点を結ぶルートは、速達性・定時性を確保することが難しいことから、本交通結節点から歩いて移動できる距離に高速バス停を設けることで利便性を確保できると考えている。
- 事務局：BC コザ付近の高速バス停新設の提案については、関係機関と意見交換を行っていきたい。
- 委員：胡屋バス停利用者は胡屋十字路側から来訪している利用者が多いのではないかと。実際にバス停付近に立って、来訪方面を見ていると、多くが胡屋十字路からの来訪していた。調査時間帯や手法について教えていただきたい。
- 事務局：胡屋バス停（上り・下り）に調査委員を配置し、観測日の 7 時から 20 時までの 13 時間、どの方面（胡屋十字路側、胡屋北交差点側）から来訪しバスに乗車したか、また、バスから乗降しどの方面に向かったかを調査した。今回、平日の調査が 1 日のみであることから結果の

信憑性含め、引き続き調査・検討を進めていきたい。

委員：バス事業者としては、子育て世代等の負担軽減を図ることを目的として、通学定期割引率を引き上げている。このような取組がバス利用促進のみならず、まちづくりに繋がると考えていることから市の方でもまちづくりの観点から、時刻表やデジタルサイネージ等を情報発信できる施設等を設けていただきたい。

事務局：バス利用促進については、コミュニティバスを運行しながら、バス無料の日など公共交通に対する理解を求める周知活動を実施してきたところである。社会実験を実施しながらどういった取り組みが可能か検討していきたい。

委員：充電施設の必要性に関して、スペース確保の問題はあるが、将来を見据えると EV バスの充電施設は必要だと考える。

委員：市の社会実験等の取り組みにおいて、広く情報が届くよう今後は周知に協力していきたい。

委員：協力型バスレーン等の取り組みを進めるにあたり、道路改良や拡幅等が生じる場合には、円滑に整備が進むよう、事前に情報をいただきながら適宜調整を行っていく必要がある。

委員：交通結節点での折り返しや待機スペースについては、基幹バスシステム導入にかかる会議等でも議論される事項のため、引き続き意見交換を重ねていきたい。

委員：本交通結節点は、パーソントリップ調査のマスタープラン素案に示した「交通まちづくり」を具体化する施策として位置付けられ、マスタープランを具現化する戦略の中核を担うものと考えられる。

委員：P&R の検討にあたっては、まちなかに点在する既存駐車場の整理が重要であると考えられる。引き続き、駐車場の活用方法について検討いただきたい。

委員：協力型バスレーンの実証や基幹急行バスのサービス向上の取り組みが BRT 等の運用に繋がれば良いと考える。

委員：交通結節点における一般車両の整理が必要であり、回遊促進や景観形成を踏まえ、本交通結節点付近の民間開発に関しては、国道 330 号沿道への駐車場新設を抑え、裏手の市道に駐車場を設けてもらうなどの誘導が必要と考える。

委員：本交通結節点検討箇所付近に点在する既存駐車場をうまく活かしつつ、まちなかを回遊しながら本交通結節点へアクセスできる仕組みを構築できると良いと考える。また、P&R に関して、てだこ浦西の課題を例にあげると、近隣からの利用は自治体が運用する循環バスを利用いただき、遠方からの利用者は駐車場を使っていただくような棲み分けも必要。

委員：本交通結節点においては、車とバスの乗り換え施設となることを目指した方が良いと考える。バスを利用してもらうには、バスの集積による乗り換えのしやすさに加え、広場機能やバス乗降付近にまとまった駐車場があって利便性向上が図られるのではないかと考える。既存駐車場の活用に関しては、狭い道を通行させることになることから、ウォークアブルの観点も踏まえた歩車共存のシステムの検討が必要。（パークアベニューやゲート通り等）

委員：P&R に関しては、集約化した大規模駐車場を交通結節点の地下に整備した方が良いと考える。

委員：モノレールから本交通結節点のルートを考える場合、東海岸付近で開発が進んでいる西原町やうるま市等との連携や西海岸の市街地を経由した本交通結節点との連携も必要と考える。

- 委員：バス専用レーンと交通拠点整備をセットで検討しつつ、バス利用者を飛躍的に増やすことを狙い、P&R など、車からバスへ誘導する仕組みを両輪で取り組むことが重要である。また同時に交通結節点は単なる拠点ではなくプレイス（場）として整備すべきであり、市民が居心地が良く、滞在したくなる空間づくりが事業成功の鍵だと考える。そのためには、地元住民や商店街関係者、高齢者等の多様な主体が関与できるアーバンデザインセンター等の仕組みが重要である。
- 委員：両側に拠点を整備し、デッキ等で接続することで、まちの分断を防ぐとともに、国道から見た景観として象徴的な都市空間となる交通結節点となるよう引き続き検討を進めていただきたい。
- 委員：人流の流れについてももう少し整理が必要だと考える。沖縄サントリーアリーナでイベント開催時や通学時などの平時を対象に、公共交通利用者や県内外の人流の実態を分析し、胡屋地区に交通結節点を整備することで、生活や活動の利便性が向上する対象者を明らかにすることが望ましい。
- 委員：那覇空港駐車場やてだこ浦西駐車場の利用状況を踏まえ、県全体として本交通結節点での公共交通網、駐車場の使い分けを議論する必要がある。
- 委員：議論を深めるため、県民・市民や関係機関との公共交通に関するコミュニケーションの場づくりに取り組むことが良いのではないかと考える。国・県・市町村が分担して主催し、継続的に実施する仕組みを構築することが良いと考える。
- 事務局：いただいた意見を参考にしながら検討を進めていきたい。

以上